

公民学連携のプラットフォーム 「アーバンデザインセンター」について

平成28（2016）年3月26日

1

肥塚 浩

立命館大学教授・草津未来研究所顧問

全体の流れ

草津版アーバンデザインセンター（UDC）の必要性

3

草津版UDCとは？

10

居心地のいい場所としてのUDC

19

知的好奇心を刺激する魅力あるプログラム

30

公民学連携のプラットフォーム

39

（参考）未来創造セミナー実績

45

（参考）他UDCの特徴

54

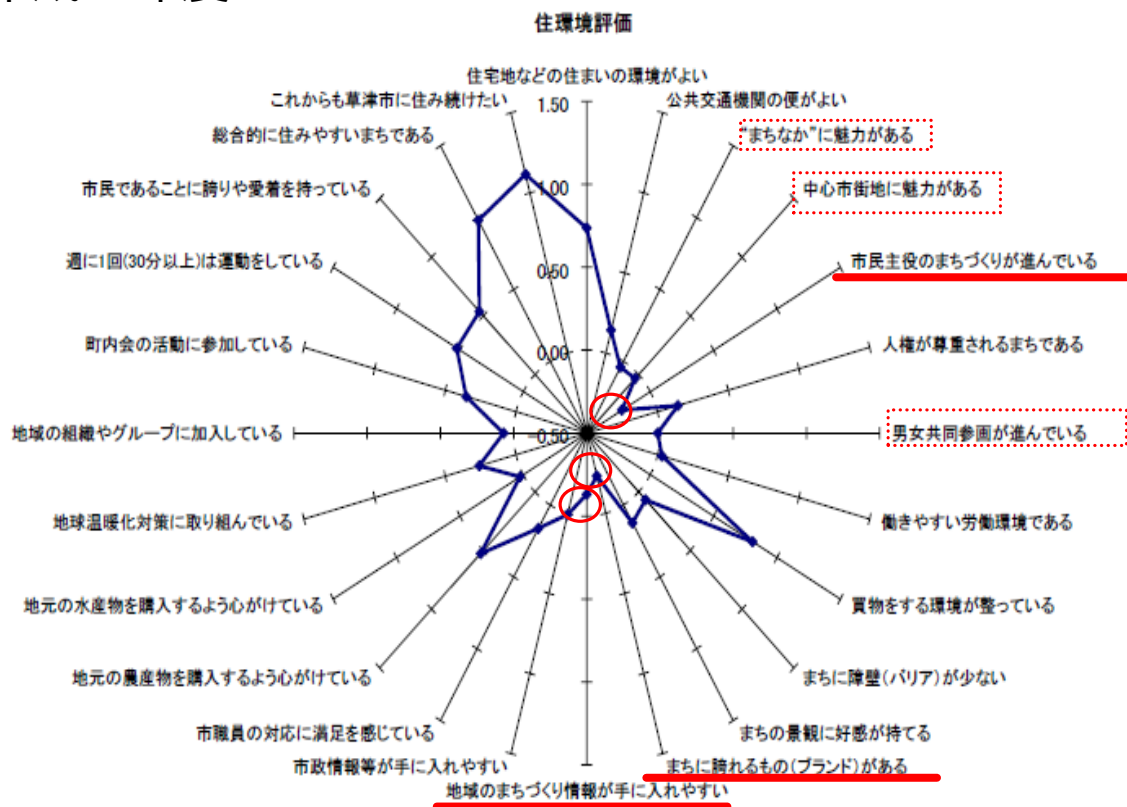
（参考）他UDC調査メモ

60

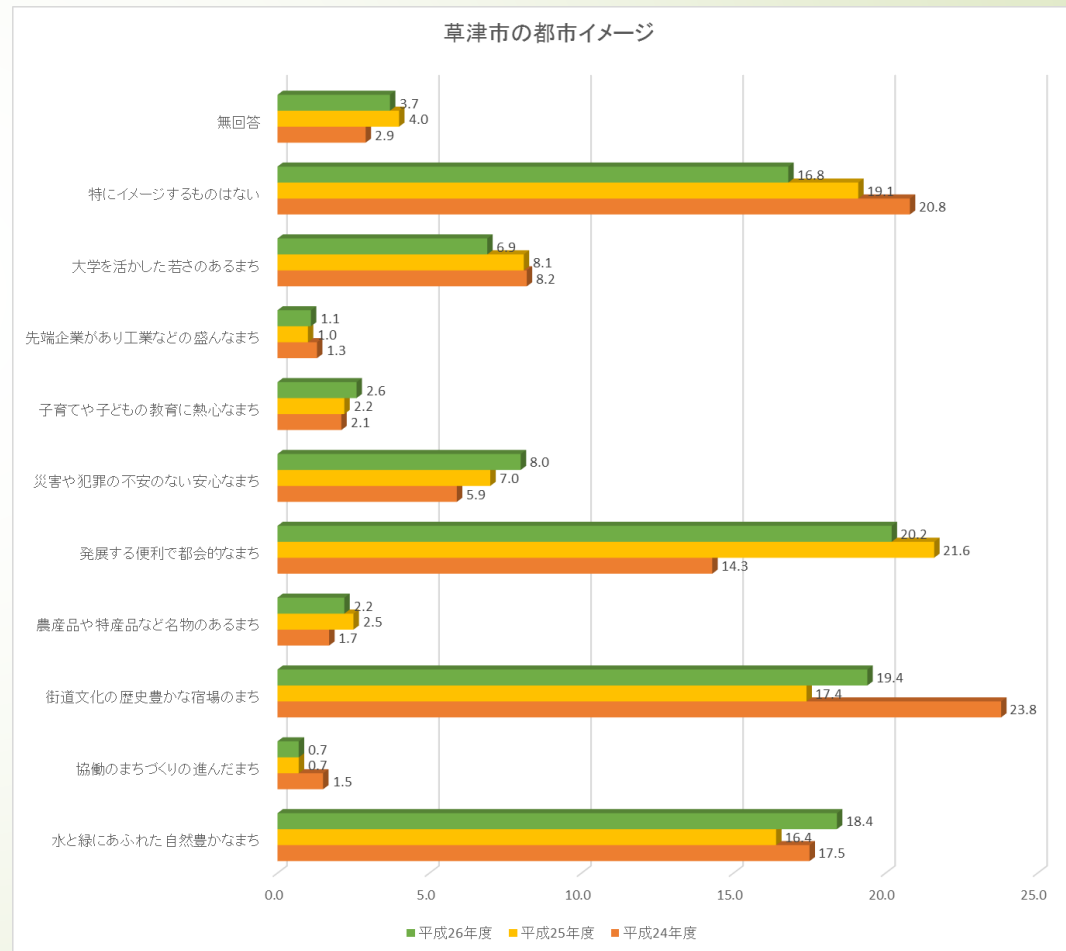
まちづくりについての市民意識調査

①草津市の住環境評価（加重平均）

平成26年度

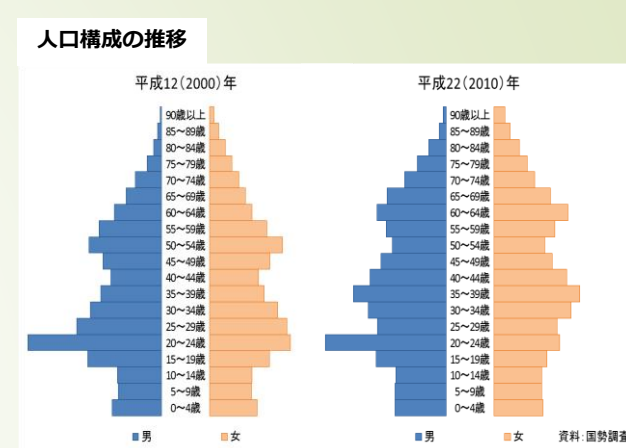
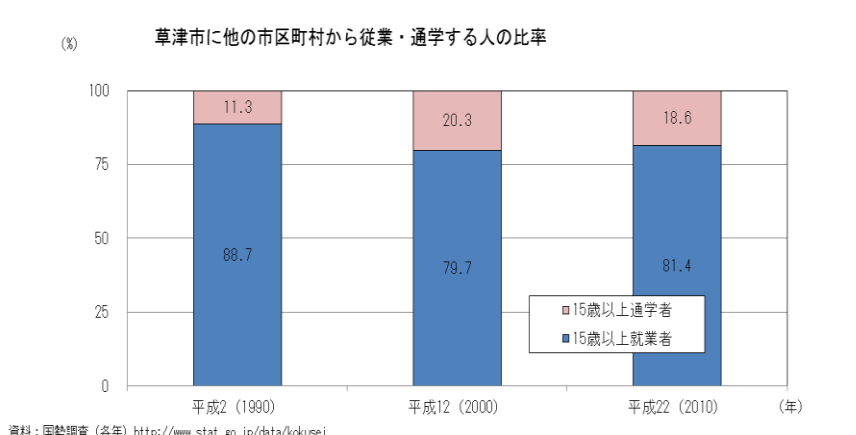
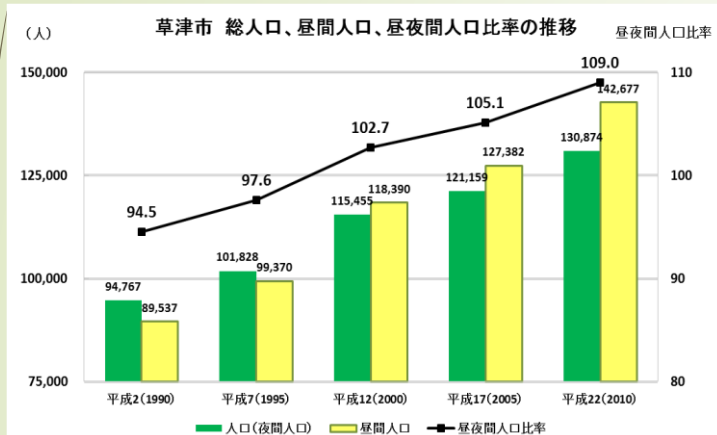


②草津市の都市イメージ



草津市の人口動態・構成

4



草津市への流入

総数 45,437人
(平成22年10月1日、国勢調査)



- 昼夜間人口比率が1.09であり、昼間の方が人口が多い。
- 流入人口は約45,000人であり、約8割は就業者である。
- 流入人口は約7割が県内市他市であり、隣接の大津市、守山市、栗東市のみで約5割を占める。
- 昼間人口の1割が学生であり、学生は県外が多い。

課題

- 草津市に住みたくなる魅力ある活動の場を提供すること
- 通学者が卒業後も住み続けたいと思う活動の場、または関西圏に戻ってきたときに再び草津を選択していただける思い出を作る場の提供

草津市の都市構造の特徴と「南草津」



- 「第5次草津市総合計画基本構想」では、草津駅と南草津駅を「双眼の核」として位置づけている。
- 草津駅前には旧市街地であるため、社会インフラ等の蓄積があるが、南草津駅前には新市街地のため、社会インフラ等が不足している。
- 草津駅エリアと南草津駅エリアで人の活動範囲が分かれる傾向にある。
- 南草津エリアに大学が立地している。



南草津エリアにおける
社会的拠点の必要性

過去の調査研究による「南草津」の特徴

6

平成24（2012）年度「南草津のまちづくりに関する調査研究報告書-南草津地域のまちづくりの方向性について-」を一部修正

内部の環境	強み (Strength)	弱み (Weakness)	外部の環境	機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
	<p>(1) 20歳代、22歳代の来住や住宅購買力のある働き盛りの人の多さ (2) ドラッグストア、コンビニ等、生活の利便性がある店・施設の増加 (3) 駅を中心とした都市インフラ整備、公共交通の発達 (4) 立命館大学の人的、知的、組織的な資源活用の可能性の高さ (5) 昼間人口が多い (6) 子どもの数が多い (7) 駅の乗降者数が多い (8) 京阪神に近い (9) 工場が多い</p>	<p>(1) 生活の場、居場所、憩いの場として魅力の未成熟（遊び場等） (2) 居住者層とまちのつながり・コミュニティの不足（町内会、檀家等） (3) 駅前としての公共の場の不足、街路樹の少なさ (4) 「交流人口」を呼び込む魅力の不足 (5) 文化的、学問的、知的な要素の不足（専門書店等） (6) 飲食店、ヘアースalon等、商業機能の偏り、連携の弱さ、一体性の不足 (7) ワンルームマンションの空室化 (8) 人の集まるイベントが少ない (9) 回遊性がない。</p>		<p>(1) 本格的な高齢社会への準備の遅れ (2) グローバル化による草津市製造業の拠点性の不確かさ (3) 郊外型の大規模小売店の立地 (4) サステナブル度（とくに社会安定度）評価の低さ (5) 18歳人口減少による立命館B K Cの将来性の不明確さ (6) 類似した性格を持つ湖南地域の都市の発展 (7) 市内の新駅設置の可能性</p>	

平成26（2014）年度「大学と地域の連携に関する調査研究報告書 -大学のある都市としての優位性を活かすために-」の提案

7

- ① **大学地域連携拠点(機能)の設置(行政)**
- ② **学生相談窓口の開設(行政)**
- ③ **社会実験推進事業の実施(行政・大学)**
- ④ **大学との共同研究の強化(行政・大学)**
- ⑤ **大学の研究成果などを発表できる場の提供
(行政・大学)**
- ⑥ **人材育成プログラムなどの充実
(大学・行政・市民)**
- ⑦ **地域ラウンドテーブルの構築
(企業・大学・行政)**
- ⑧ **学生主導型体験プロジェクトの実施
(大学・学生・地域・市民)**
- ⑨ **まちづくり協議会などとの連携強化
(大学・地域・NPO・中間支援団体)**
- ⑩ **大学のさらなるキャンパス開放(大学・市民)**

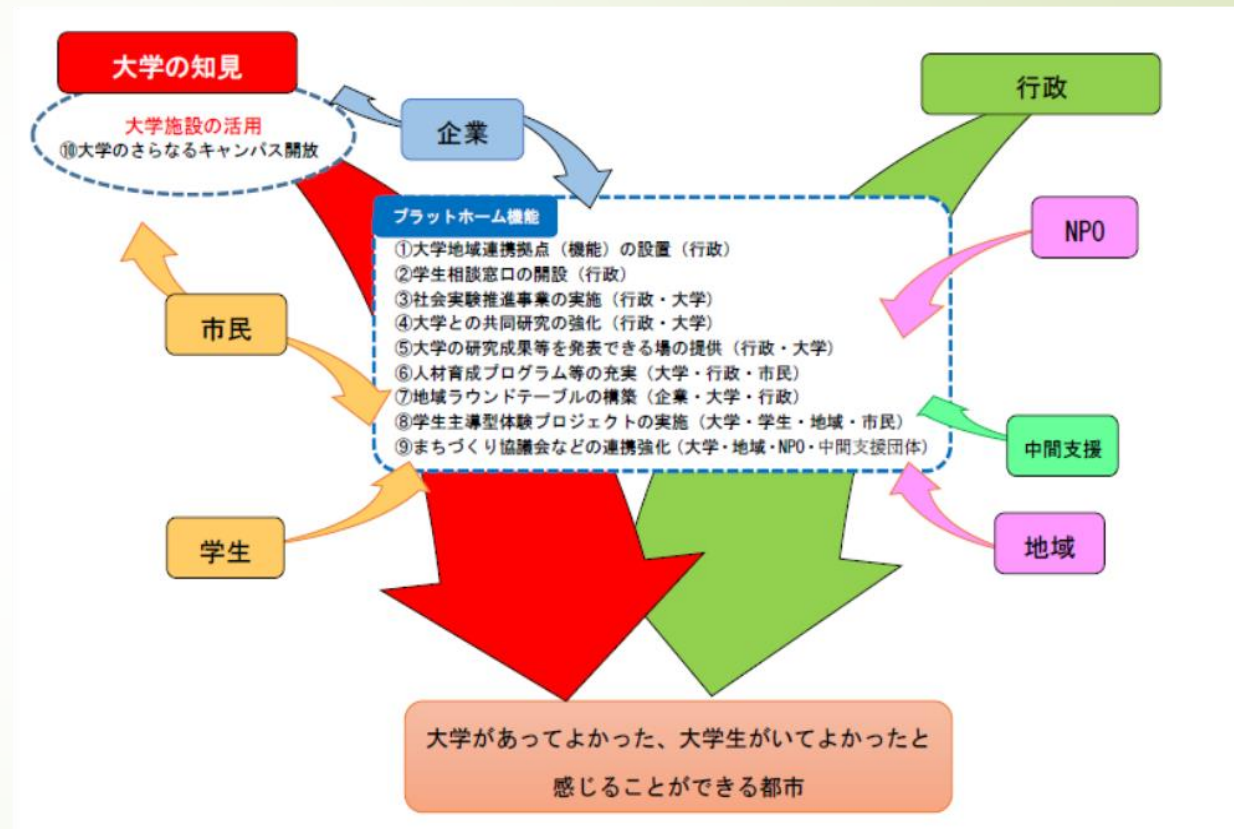


図4-2 大学と地域の連携にかかる具体的提案の展開図

課題解決のための方向性

8

市民意識調査からの課題

「まちに誇れるもの（ブランド）」「市民主役のまちづくり」「地域のまちづくり情報の提供」

都市のイメージの課題：「特にイメージするものはない」と回答した層を「協働のまちづくりの進んだまち」「先端企業があり工業などの盛んなまち」「大学を活かした若さのあるまち」に思ってもらえるように

人口動態・構成からの課題

通勤者にとって移住したくなる魅力ある活動の場を提供すること、または定年後に住みたいと思える魅力を作ること。

通学者が卒業後も住み続けたいと思う活動の場、または関西圏に戻ってきたときに再び草津を選択していただける思い出を作る場の提供

【提案】

- 市民が主役となり、建築、公共空間、アート、祭り、スポーツ、産業技術など都市の印象を形成するような行動を起こす。
- 立命館大学びわこ・くさつキャンパスを有する等の（南）草津の強みを最大限に生かしながら、**就業・通学者たちがゆるやかにまちづくりにかかわれるような仕組みづくり**
（平成24年度「南草津のまちづくりに関する調査研究報告書」参照）
- **気軽に自由に議論や話ができる空間が演出され、常に新しい出会いが創造されること**
（平成24年度「南草津のまちづくりに関する調査研究報告書」）
- 地域をベースに**市民と行政、企業、大学等が連携してまちづくりを進めていくための「場所」、「環境」である連携拠点（機能）**が必要
（平成26年度「大学と地域の連携に関する調査研究報告書」）

連携拠点の仕組みとして
アーバンデザインセンター（UDC）が有効

全体の流れ

草津版アーバンデザインセンター（UDC）の必要性

3

草津版UDCとは？

10

居心地のいい場所としてのUDC

19

知的好奇心を刺激する魅力あるプログラム

30

公学民連携のプラットフォーム

39

（参考）未来創造セミナー実績

45

（参考）他UDCの特徴

54

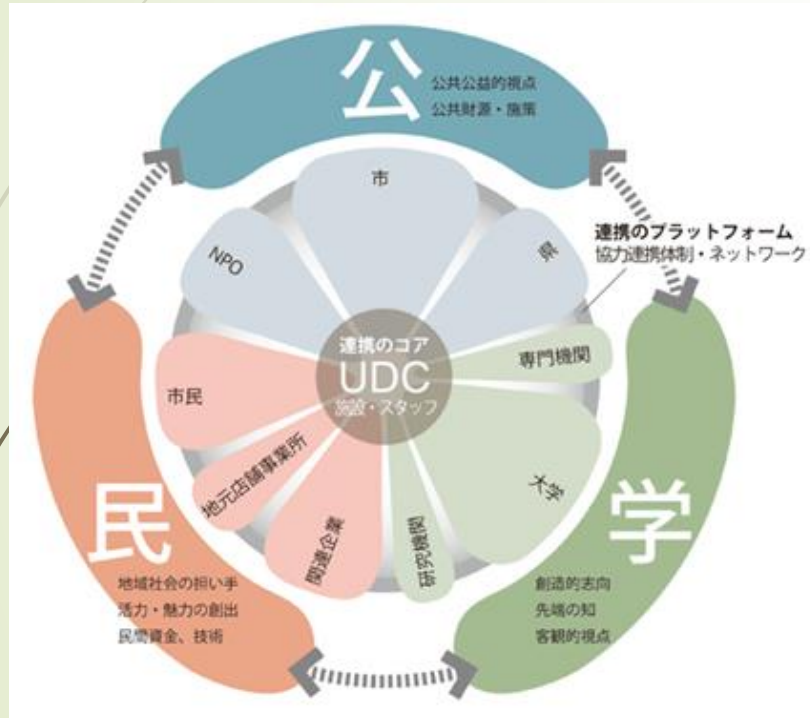
（参考）他UDC調査メモ

60

アーバンデザインとは？

- 都市空間（アーバンスペース）は、多くの建築物、道路、樹木、街灯やベンチなどによって構成されています。また、市街地だけでなく、その周辺の田園や緑地も、都市空間を支える重要な構成要素です。
- その空間には歴史があり、複合化した地域の課題があり、人々の活動があり、そして、未来への可能性が広がっています。
- アーバンデザインでは、地域の歴史や現状を知り、地域の個々の課題を構造化し、地域の複合的な課題として捉えたうえで、未来のまちのイメージについてみんなで話し合い、共有します。そうして、未来を創造するための新たな活動を産みだし、人々のニーズにあった都市空間をデザインすることです。

アーバンデザインセンター（UDC）とは？



アーバンデザインセンターとは

- 複合化した地域の課題に対して、公・民・学のそれぞれの立場で活動する様々な個人や組織が、様々な場面で臨機応変につながり、協働して解決に取り組むコラボレーションを進めるためのプラットフォーム
- 「大学」や専門家は、新たな技術や理論を積極的にまちに応用すると共に、長期的・客観的視点から見たコラボレーションの方向づけをする上で、重要な役割を担う。
- 公・民・学のマス・コラボレーションを地域主体で実践し、まちを創造する拠点

全国のUDC一覧

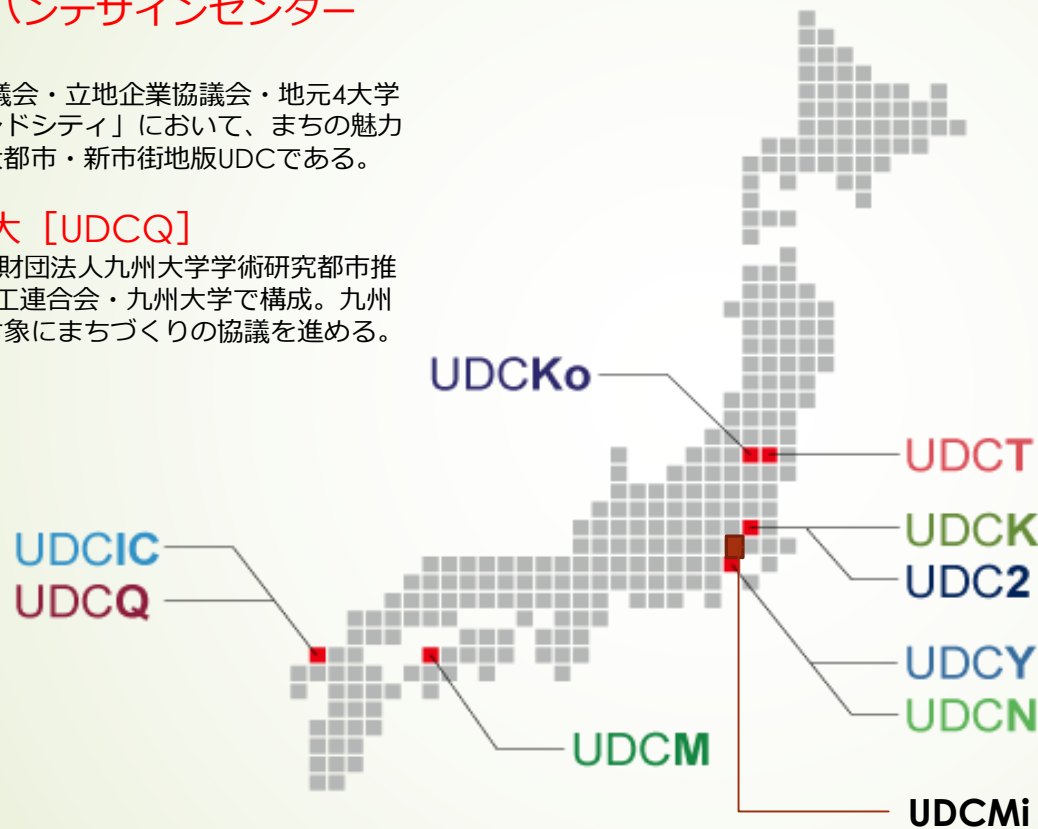
12

■ アイランドシティ・アーバンデザインセンター [UDCIC]

2012年10月設立。福岡市・地域団体協議会・立地企業協議会・地元4大学で構成。福岡市東区の人工島「アイランドシティ」において、まちの魅力向上やプロモーションに取り組む地方大都市・新市街地版UDCである。

■ アーバンデザイン会議九大 [UDCQ]

2007年3月設立。福岡市・糸島市・公益財団法人九州大学学術研究都市推進機構（OPACK）・地元町会・元岡商工連合会・九州大学で構成。九州大学キャンパスが移転した糸島半島を対象にまちづくりの協議を進める。



■ 松山アーバンデザインセンター [UDCM]

2014年4月設立。松山市・地域団体・企業・地元4大学で構成。松山市のまちなかを対象に、「未来志向のまちづくり」と「歴史・伝統・文化の継承」を柱に、将来ビジョン検討や個別地区の空間デザイン等に取り組む。

■ 柏の葉アーバンデザインセンター [UDCK]

2006年11月設立。柏市・東京大学・千葉大学・地域団体・企業で構成。千葉県柏市北部 柏の葉エリアにおいて、知の資源や民間の活力を最大限に生かした次世代環境都市・国際学術研究都市の実現を目指し活動している。

■ 田村地域デザインセンター [UDCT]

2008年8月設立。田村市行政区長連合会・田村市・東京大学で構成。福島県田村市において、合併した旧町村単位で地方小都市のコンパクトなまちづくりに取り組む。

■ 郡山アーバンデザインセンター [UDCKo]

2008年11月設立。地元町会・地元企業に所属する個人・東京大学で構成。地方中核都市である福島県郡山市の郊外に拠点を置く民間主導型UDCである。

■ アーバンデザインセンター横浜 [UDCY]

2008年4月設立。横浜に拠点を置く専門家が連携するネットワーク型シンクタンク。これからの横浜のあり方を幅広い視野から考え、実践に向けて取り組む大都市版UDCである。

■ UDCN 並木ラボ

2014年3月設立。横浜市立大学COC事業の一環で、横浜市金沢シーサイドタウンに拠点を置き、郊外住宅地における超高齢化・空家増加・建物老朽化といった課題への対応に向け実践的に取り組む。

■ 柏アーバンデザインセンター [UDC2]

2015年4月設立。柏市・地元の団体や個人・東京大学で構成。千葉県柏市の柏駅周辺エリアにおいて、地域が抱える課題を解決しながら、持続可能なまちの魅力づくりと資産価値向上に取り組む。

■ アーバンデザインセンターうらわ [UDCMi]

2015年10月設立。さいたま市の団体や慶應義塾大学・東京電機大学で構成。埼玉県さいたま市の浦和美園駅周辺エリアにおいて、地域が抱える課題を解決しながら、環境未来都市づくりに取り組む。

UDCの目的と役割

13

■ 地域を知り、お互いを知る

- ▶ 過去の人々の暮らしの工夫や知恵を再発見する
- ▶ 地域の現在の状況及び課題を可能な限り把握する
- ▶ 個別の課題群を構造化し複合化した課題として認識する
- ▶ 活動を通じてお互いを知り合う

■ 未来のまちのイメージを共有する

- ▶ 中長期的な視点を獲得する
- ▶ バックキャストイングにより将来へのインパクトが大きい課題を明確にする
- ▶ ステークホルダー間の利害を調整する

■ 新たな活動を創出する

- ▶ 新たな活動の可能性を見出す
- ▶ 未来のまちを創造する萌芽的活動を支援する
- ▶ 指標等によって、活動の到達点を確認し、参考にする

UDCの役割

地域を知り、お互いを知り、みんなで話し合っ、未来のイメージから現在の課題を見つけ、その課題を解決する活動を産みだすことを支援する。

地域を知る
互いを知る

- (学習・交流)
地域を知るためのワークショップやまちあるき
(調査研究)
- ・各種統計データ等の収集
 - ・市政等の説明、解説、市民意識調査
 - ・課題の抽出・構造化

イメージの
共有

- (学習・交流)
- ・未来のまちを考えるワークショップ
・ワールド・カフェ、シナリオ・ワークショップ、コンセンサス会議 等
 - (調査研究)
 - ・合意形成プロセスの研究など

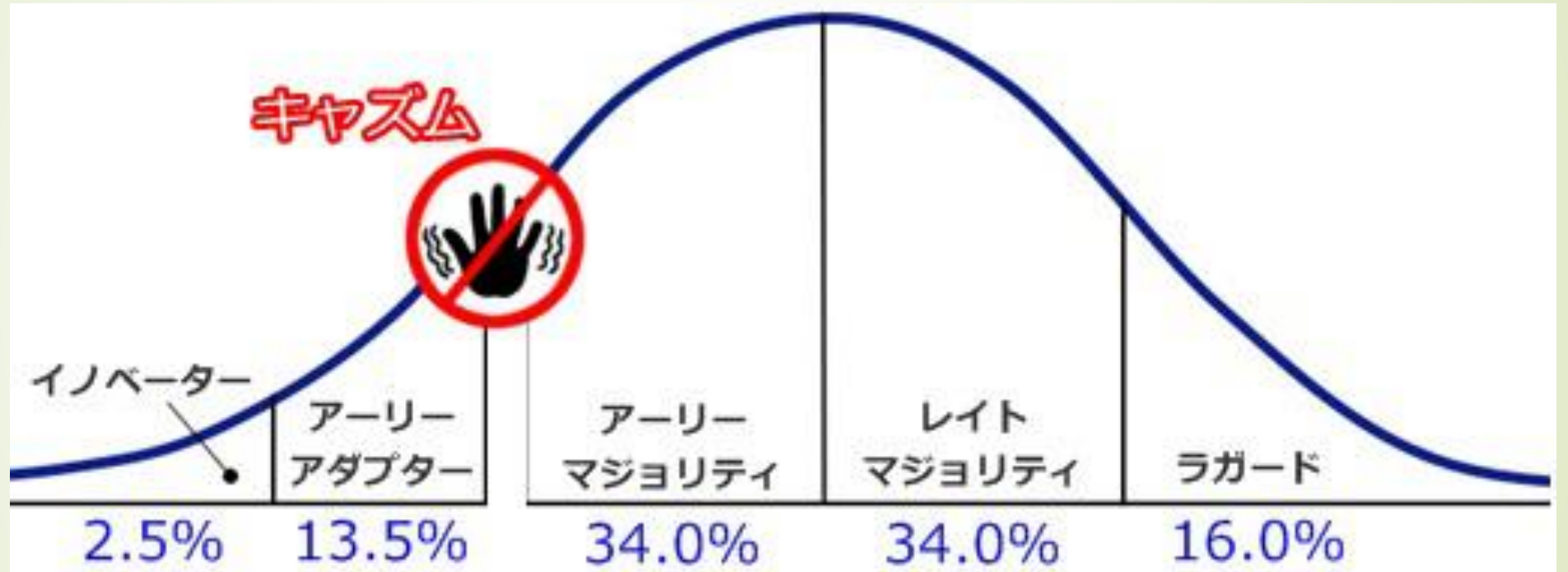
新たな活動
の創出

- (社会実験)
- ・ワークショップ等の提案を実施
(調査研究)
 - ・市民活動に関する調査研究など

アーバンデザインセンターのターゲット

未来先取

現実対応



マーケティングis.jp

「イノベーター理論とキャズム理論」 <http://marketingis.jp/archives/2365>

アーバンデザインセンター
のターゲット

従来の行政のターゲット

草津版UDCの役割

UDCの場と取組みによって、草津市の課題発見と課題解決に寄与することが可能になると考えます。

- 連携・交流の場の提供
 - 就業・通学者、単身赴任者、下宿生等と居住者との交流の機会創出
 - 子育て世代の交流・活動・発信機会
 - 女性の活躍の場
- 市民による萌芽的活動支援や既存市民活動との連携・交流
 - 市民による萌芽的活動を支援（社会実験）
 - 既存市民活動体との連携
- 情報発信
 - 地域のまちづくりに関連する情報の発信
- 市民・市・大学・企業・NPOなどの連携強化

草津版UDCの機能（案）

16

	UDCK (柏の葉アーバンデザイン センター)	UDCM (松山アーバンデザイン センター)	UDCIC (アイランドシティ・ アーバンデザインセンター)	草津版（案）
所管課	柏市企画部 企画調整課	松山市都市整備部 都市デザイン課	福岡市港湾局 アイランドシティ経営 計画部事業管理課	草津市総合政策部 草津未来研究所
学習・交流	学習・研究・ 提案	交流・学習・ 教育・情報発信	連携・交流の場の創出	連携・交流の場の創出
調査研究		研究・提案	まちのデザインの 研究・提案	アーバンデザインの 調査研究
社会実験	実証実験・ 事業創出	実証実験・ 事業創出	大学や企業による実証 実験・研究	萌芽的活動の支援
情報発信	(言及せず)	(交流・学習・ 教育・情報発信)	情報発信 プロモーション	情報発信
デザイン マネジメント	デザイン マネジメント	デザイン マネジメント	(福岡市港湾局)	まちのイメージの共有
エリア マネジメント	エリア マネジメント	(既存まちづくり団 体)	まちづくり活動の 企画・実施	(既存支援活動体に 切れ目なく接続)

UDC発展のための三要素

17

居場所・交流

居心地の
いい場所

- ・人通りの多い目立つ場所
- ・カフェのような入りやすく、話しやすい雰囲気
- ・ワークショップなどを気軽に行える機器類の整備

学習・成長

魅力ある
プログラム

- ・市民が本当に語りたい事柄や行いたい活動の支援
- ・市民とともに組み立て、UDCはサポートし、実施する場

調査研究・活動

イメージを
具現化する
社会実験

- ・公共的課題を多様な組織や個人が参画して解決への取り組み
- ・地元企業・立地企業等専門的知識を持つ組織の参画
- ・近くに総合大学があり、積極的に参画

全体の流れ

草津版アーバンデザインセンター（UDC）の必要性

3

草津版UDCとは？

10

居心地のいい場所としてのUDC

19

知的好奇心を刺激する魅力あるプログラム

30

公民学連携のプラットフォーム

39

（参考）未来創造セミナー実績

45

（参考）他UDCの特徴

54

（参考）他UDC調査メモ

60

居心地のいい場所としてのUDC

19

▶ オルデンバーグが定義する“サード・プレイス”の8つの特徴

- ▶ **中立領域** サード・プレイスの構成者は義務感からそこにいるのではない。彼らは、経済的、政治的、法的に縛られること無く、喜んでやってくる。
- ▶ **平等主義** サード・プレイスは、個人の社会における地位に重きをおかない。経済的・社会的地位は意味がなく、ありふれていることが許容される。サード・プレイスでは参加するために、何も必要条件や要求がない。
- ▶ **会話が主たる活動** 遊びココロや楽しい会話がサード・プレイスの活動のメインフォーカスである。会話のトーンは気軽で、ユーモア、ウィットがあり、優しい遊びココロは高く評価される。
- ▶ **アクセスしやすさと設備** サード・プレイスはオープンで、みなが訪れやすい環境。柔軟で親切で、集まる人のニーズにこたえる。
- ▶ **常連・会員** サード・プレイスは、常連がいて、空間やトーンを形成する。その場所らしさを彼らがつくる。新たな訪問者を惹きつけて、新参者にも優しい。
- ▶ **控えめな態度・姿勢** サード・プレイスは、健全である。その中には無駄遣いや派手さはなく、家庭的な感じ。偉ぶったり、排他的であってはいけない。いかなる個人、あらゆる階層の人を受け入れる。
- ▶ **機嫌がよくなる** サード・プレイスでの会話のトーンは、けっして緊張や憎悪を生んではいけない。その代わりに、陽気でウィットに富んだ会話、気さくな冗談は歓迎される。
- ▶ **第2の家** サード・プレイスにいる人たちは、しばしばあったかい感情を共有する。あたたかも同じ家に暮らす者同士のように。この場所に根ざしている感情を持ち、精神的に生まれ変わることを得る。

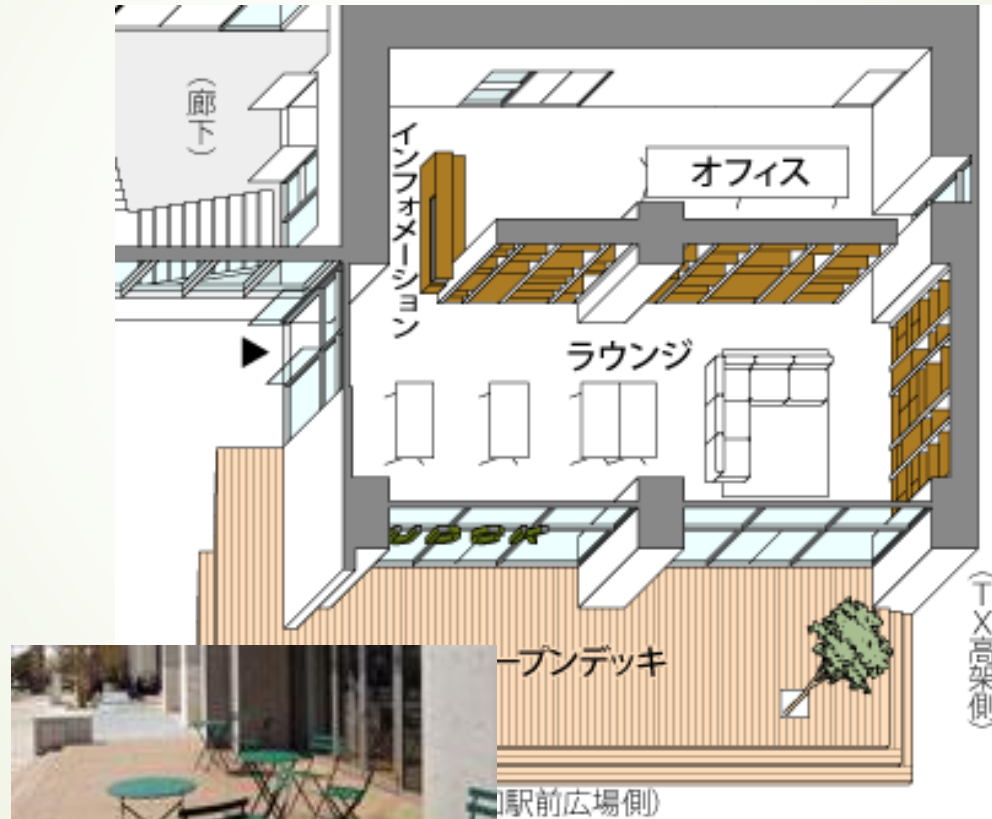
拠点事例 (UDCK) 外観



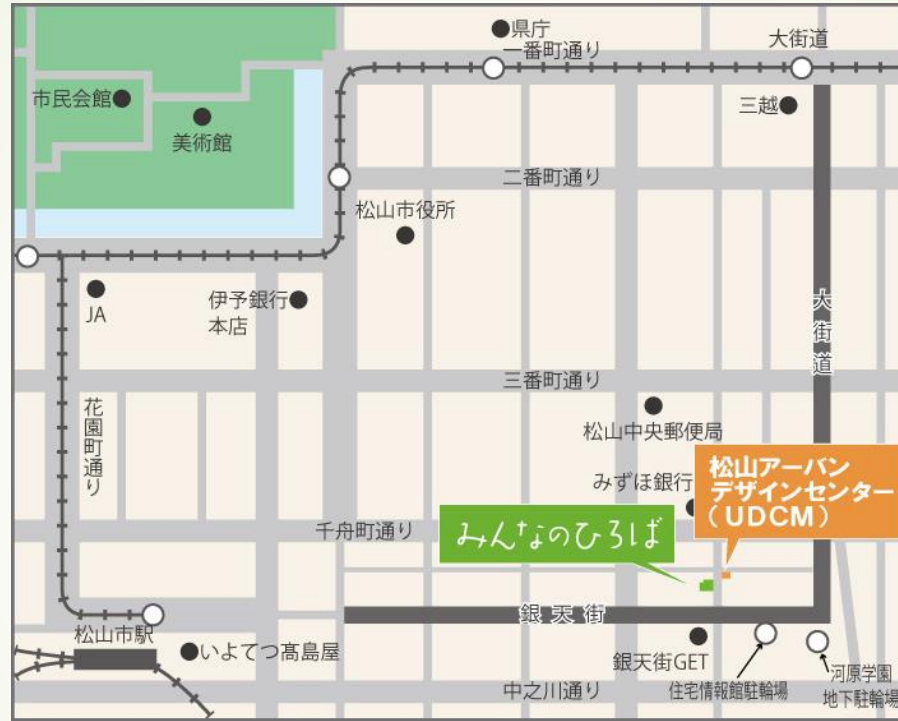
<http://www.udck.jp/>



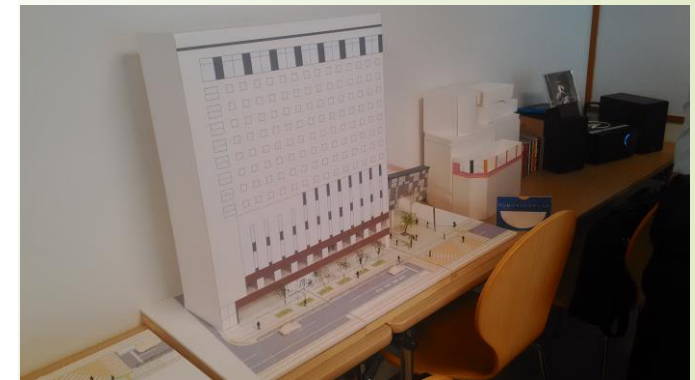
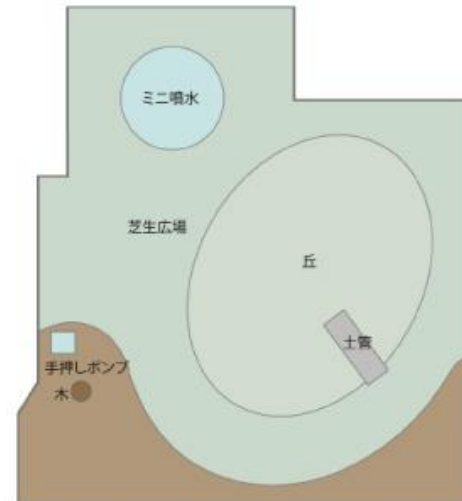
拠点事例 (UDCK) 内観



拠点事例 (UDCM) 外観



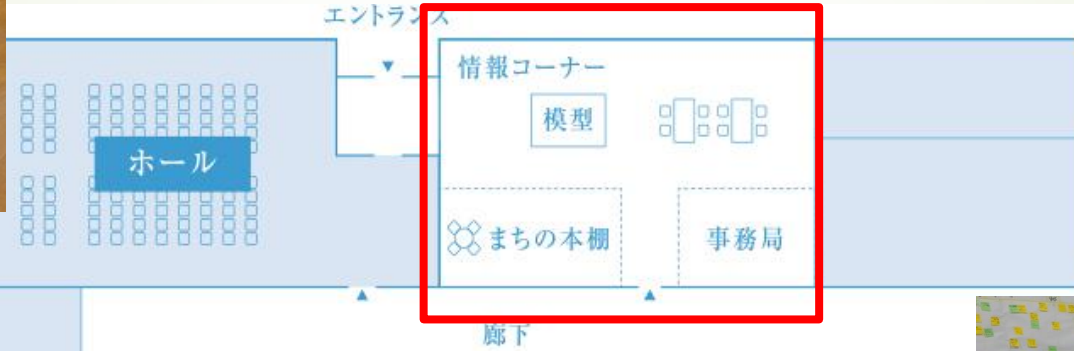
拠点事例 (UDCM) 内観



拠点事例 (UDCIC) 外観



拠点事例 (UDCIC) 内観



既存拠点施設の特長

外観 (周辺環境)

- 駅前や商店街の近く、ニュータウンのランドマークビル内などその地域では人通りの多い道路に面したビルの1階にある。
- 公園や広場などの近くにある。
- 建物は全面ガラス張りで、外から内部が見えるようになっている。
- UDCのロゴが目立つところにあり、遠くからでもわかる (K,CI)

内観 (設備等)

- 多目的ホールとして設計されている。
- 机や椅子は自由に移動できるようになっている。
- ホワイトボードやプロジェクターなどが常備されている。
- 自らポトラッチ（飲食物を持ち寄って交流）を主催するなど飲食の持ち込みが自由である。
- マイクロライブラリー（まちの小さな図書館）が併設されている。（K,CI）
- まちの情報ステーション的な機能も兼ねている
- ソファ等くつろぎのスペースがある (K)
- 広場が目の前にあるため、多目的トイレ設置 (M)

その他

- UDC Kは三代目の建屋、UDC Mは移転が予定されているなど状況に合わせて柔軟に対応している。

拠点を検討する上での条件①

外観 (周辺環境)

- 南草津駅前の人通りの多い道路に面したビルの1階が望ましい
(地図の枠内)
- 公園や広場などの近くが望ましい
- 建物はガラス張りで、外から内部が見える

内観 (設備等)

- 多目的ホールとして設計する
- 机や椅子は自由に移動できる
- ホワイトボードやプロジェクターなどが常備する
- 飲食の持ち込みを可とする(小さなカフェ機能)
- まちの情報ステーション的な機能も兼ねる
- 子育て世帯が多い地域のため、プレイルーム的な機能を持たせる
- バス待ちなど学生や社会人の待機場所としても活用する
- 無線WiFi、PC及びスマホ用電源を整備する

拠点を検討する上での条件②



全体の流れ

草津版アーバンデザインセンター（UDC）の必要性

3

草津版UDCとは？

10

居心地のいい場所としてのUDC

19

知的好奇心を刺激する魅力あるプログラム

30

公民学連携のプラットフォーム

39

（参考）未来創造セミナー実績

45

（参考）他UDCの特徴

54

（参考）他UDC調査メモ

60

実施プログラムの基本的な考え方

市民主役であることから、

- 市民がやりたいこと、疑問に感じていることを取り上げる。
 - ただし、アーバンデザインの目的に合致していること
- UDCは、会場及び機器類の提供、専門家等の紹介や招集、告知・参加者募集などのロジスティクスを支援する。
 - 市民主役であるが、主催はUDCである。
- スピード感が大切なことから、現場に権限を与える。

草津版UDCの実施プログラム（案） 1/2

31

	地域を知り、互いを知る	未来のイメージを共有する	活動を産む
学習・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会 ・市政等説明会 ・地域探検ツアー ・個人史会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ ・未来のジオラマづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・アーバンデザインスクール ・アーバンデザイン研究会
大学、企業、市民による各種セミナー、イベントの実施			
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ・アーバンデザインに関する調査研究 (例) ・人口動態を反映した未来のシミュレーション ・ワンルームマンションの空き部屋活用策の検討 ・市民を対象としたアーバンデザインに関するアンケート調査・グループインタビュー 		
社会実験	<p>「アーバンデザイン」、「食と農」、「健康」、「子育て」、「産業振興」の5テーマについての産学公民連携の提案に対して、助成、及び支援を行う。</p>		
市民、企業、大学提案による社会実験			

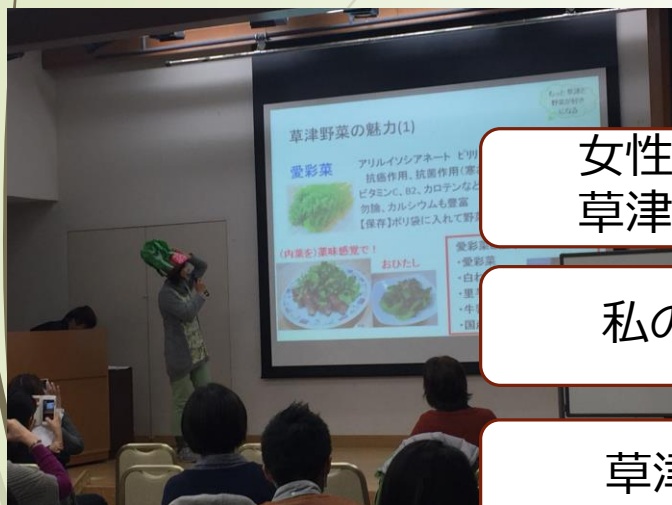
草津版UDCの実施プログラム（案） 2/2

	地域を知り、互いを知る	未来のイメージを共有する	活動を産む
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ、twitter,FaceBook等SNS利用、フライヤー、冊子等発行 （・ 拠点施設自体が街中の目立つところにあり、ガラス張りで内部の活動が見える。また地域の情報ステーション的な役割を担う） 		
デザイン マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 景観形成の方向性を共有し、都市計画部と連携して地域の特性に応じたまち並みルールづくりや、デザインの誘導を行う。 		
エリア マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「学習・交流」「社会実験」等を通じ、様々なプログラムを通じてまちに参画する機会や仕組みを仕掛け、持続的な活動になった時点で、まちづくり協働部、まちづくり協議会、商工会議所等と連携して切れ目なく繋がるプラットフォーム機能を提供する。 		

交流・学習（案）

33

- ➡ 「地域を知る、お互いを知る」をテーマに草津市で活躍する様々な人々の紹介と交流会を開催する。



女性による
草津への夢

草津市在住・在勤の女性に草津への夢を語っていただく。

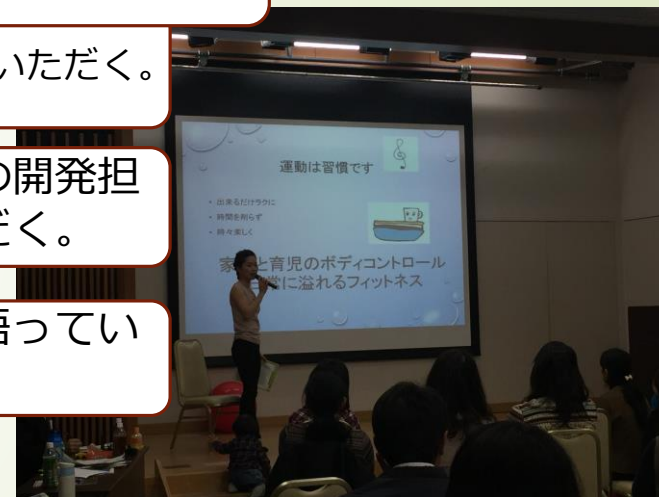
私の仕事

草津市在勤の人々（大学の研究者や企業の開発担当等）に自分の仕事について語っていただく。

草津な人

草津で生まれ、草津で育った人に半生を語っていただく。

資料作成支援
プレゼン支援



- ➡ **アーバンデザインスクール（学習中心）**

- ➡ 草津の未来を創造するために必要な知識を学ぶ。
- ➡ 4～6回のシリーズ
- ➡ 参加者の中から、ファシリテータ等を依頼していく。

調査研究（案）

34

- UDC構成団体による自由な調査研究
- UDCをリサーチ拠点として活用
- 検討結果等について市民と意見交換

- ▶ オープンデータ利活用手法の調査研究
 - ▶ 市所有情報のオープンデータ化に呼応し、オープンデータをまちづくりに活かすための手法を検討
 - ▶ アイデアソン、ハッカソンの実施
 - ▶ スマートデバイスを利用した地域情報の収集手法の検討
- ▶ 空きワンルームマンションの利活用案の検討
 - ▶ 空きワンルームマンションの実態調査
 - ▶ 空きワンルームマンションの利活用案の検討
- ▶ 都市デザインスタジオ
 - ▶ 学生の自由な発想のもと、未来の草津の都市デザインについて調査研究

社会実験（案）

- 包括協定締結大学を対象とした「アーバンデザイン」「食と農」「健康」「子育て」「産業振興」をテーマにした社会実験の委託事業
 - 5事業の実施予定（一件あたり40～50万円を想定）
 - 1大学1事業を原則とし、学内で選考
- 委託条件
 - UDCを活用した社会実験とすること
 - 市民、または市民グループの参画に努めること。
 - キックオフ、中間報告、最終報告の3回、市民を対象とした報告会を開催すること

大学、企業等の独自プログラム（案）

- ▶ 大学の独自プログラム
 - ▶ 市民を対象とした各種イベント
 - ▶ 学生団体による各種イベント
- ▶ 企業の独自プログラム
 - ▶ 新商品・サービス等のモニター調査
 - ▶ 市民を対象とした各種イベント


情報発信（案）

- ▶ Facebook、Twitter等ソーシャルメディアの活用
- ▶ えふえむ草津との連携検討



71 4G 71% 9:06

← 草津市役所さんの投稿の写... 🔍

 草津市役所さんが写真3件を追加しました
草津市
2015年12月16日 13:25

第5回未来創造セミナーのご案内

こんにちは、草津未来研究所です。

さて、今年から始まった未来創造セミナーも5回目を迎えます。
5回目は「健康」をテーマに行います。
タイトルは

くさつジェンヌは、「動いて、食べて、美しく」
～健康は動・食・美の結晶（クリスタル）！～

立命館大学スポーツ健康科学部の岡本先生に健康維持、増進のための動・食・美についてお話をお伺いします。
そのあと、市内で活動するおふたりのくさつジェンヌの健康の秘訣をお伺いします。
1人目のくさつジェンヌ大塚佐緒里さんには、「たべものから始まるからだづくり たべものが繋（つな）いだ仲間たち」と題してお話いただきます。大塚さんは食へのこだわりから、草津野菜の育て方や料理方法などに興味を持ち、市内を動き回り、体験農業で体を動かし、家庭菜園を始めたり、草津野菜を極める中でいろいろな人たちと巡り合うことによって「動い

コメントする... 😊

全体の流れ

草津版アーバンデザインセンター（UDC）の必要性

3

草津版UDCとは？

10

居心地のいい場所としてのUDC

19

知的好奇心を刺激する魅力あるプログラム

30

公民学連携のプラットフォーム

39

（参考）未来創造セミナー実績

45

（参考）他UDCの特徴

54

（参考）他UDC調査メモ

60

草津版UDCが目指す組織（案）

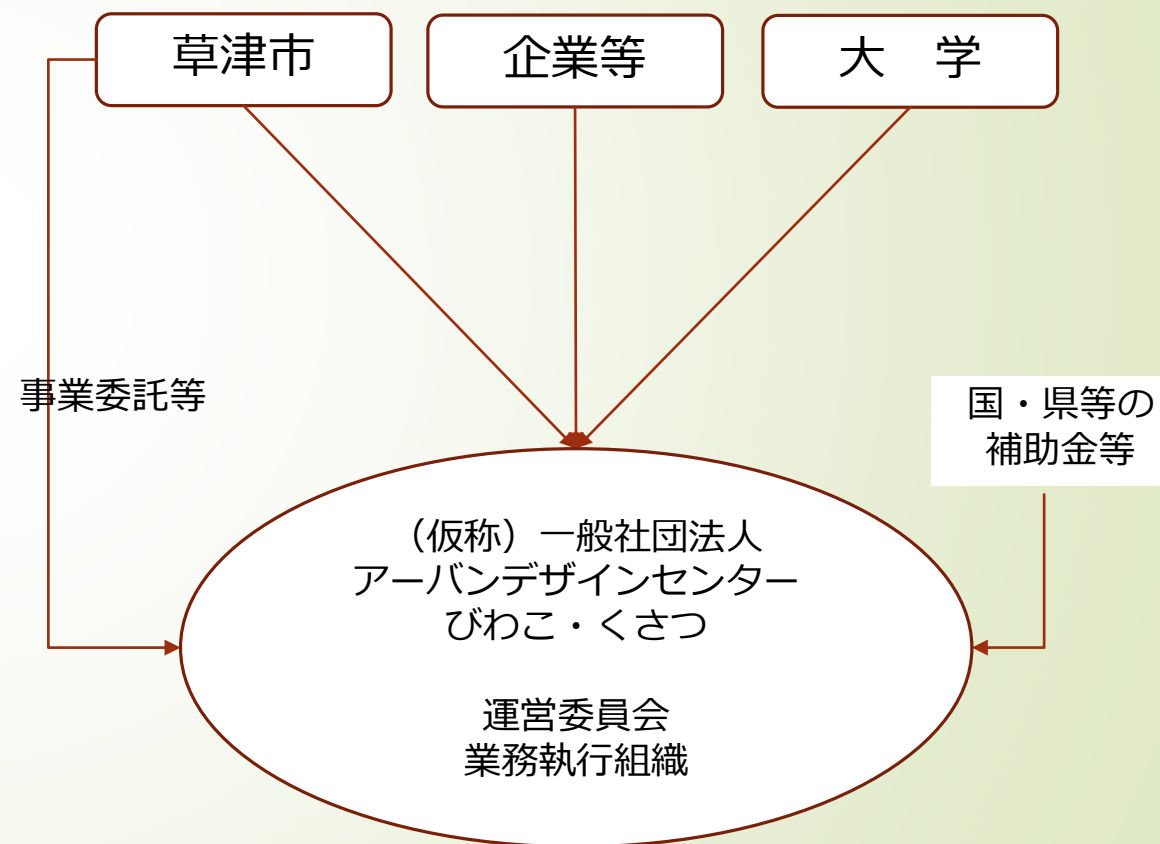
- ▶ 市民、大学、民間の自由な発想でまちづくりに寄与するため、可能な限り構成団体の独立性を確保し、新たな活動の可能性を引き出せる組織であること
 - ▶ 緩やかな連携のもと、各構成団体が自由に活動しつつ、同時に協働の取組みによる成果を発信していく
- ▶ 多様な活動資金が獲得できる組織であること
 - ▶ 国や県に働きかけ、助成金や補助金の獲得できるよう、社団法人を設立する。
- ▶ 将来的には湖南地域をフィールドにしたアーバンデザインセンター・ネットワークの核となる組織であること
 - ▶ 環びわこ大学・地域コンソーシアム等と連携し、草津版UDCの取組みを滋賀県全域に情報発信していく

(参考) 組織形態の比較

	任意団体	一般社団法人	一般財団法人	NPO法人
設立にかかる期間	法的手続きなし	書類作成から登記まで 約2～3週間	書類作成から登記まで 約2～3週間	書類作成から登記まで 約5か月
書類作成の難易度	法的手続きなし	登記関係書類のみ	登記関係書類のみ	「設立趣旨書」「事業計画書」 「収支予算書」等必要
設立に必要な構成員の数	法的手続きなし	2人以上	1人でも可	10人以上
構成員の入会制限	法的手続きなし	可	可	不可
構成員の議決権の数	法的手続きなし	定款で定める	-	一人一票
設立に必要な役員等の数	法的手続きなし	理事3名以上 監事1名以上 合計4名必要	理事1名だけでも設立可	理事3名以上 監事1名以上 評議員3名以上 合計7名必要
設立に必要な財産等の額	法的手続きなし	0円	300万円以上	0円
設立手続きに必要な経費	法的手続きなし	約12万円	約12万円	0円（収入印紙代免除）
所轄庁への報告義務	法的手続きなし	無し	無し	有り
税制優遇	法的手続きなし	非営利型・共益型の場合、有り 法人税の免除	非営利型・共益型の場合、有り 法人税の免除	法人税の免除、法人住民税の減免
その他	法的手続きなし	公益法人に移行可能	公益法人に移行可能	-

草津版UDCの運営イメージ（案）

- （仮称）一般社団法人アーバンデザインセンターびわこ・くさつを設置し、運営方針等を決議する。
- 社団法人構成団体より活動に必要な施設や物品、人員を持ち寄り、アーバンデザインセンターびわこ・くさつを運営する。
- プログラムごとに協力団体を構成する。
- 市等の業務受託、各種助成金・補助金の獲得を目指す。



草津版UDCの運営体制（案）

アーバンデザインセンターびわこ（仮称）

（監理運営） 運営委員会

（執行組織） = 連携のコア

委員長
副委員長

委員

計
15名以内

構成団体

- まちづくり協議会連合会（1名）
- 草津商工会議所（1名）
- パナソニック アプライアンス社（1名）
- 滋賀銀行（1名）
- 中間支援NPO（1名）

民

- 立命館大学等（4名）

学

- 草津市（1名）
- 草津市コミュニティ事業団（1名）

公

センター長

各プログラムを統括し、全体のアーバンデザインについて指示調整等を行う

副センター長

プロジェクトアドバイザー

プログラムごとに専門的観点から指導・助言を行う。

シニアディレクター

建築、公共空間、アート、祭り、スポーツ、産業技術等、各担当における企画・調整・連携を図りながら、事業執行を担う。

ディレクター

各プログラム（セミナー、ワークショップ、社会実験等）

草津版UDCの将来構想（案）

43

	平成28年10月	平成29年4月	平成32年4月	将来構想
活動地域	南草津駅周辺	南草津駅周辺	草津市内全域	湖南地域
設立年月	2016年10月	2017年4月		
組織形態	任意団体	一般社団法人	一般社団法人	一般社団法人
公	草津市	草津市	草津市、滋賀県	草津市、周辺市、滋賀県
民	パナソニック社 滋賀銀行 草津商工会議所 草津市コミュニティ事業団 まちづくり協議会	+a	+a	+a
学	立命館大学、滋賀大学、 京都橘大学、成安造形大学 滋賀県立大学	+龍谷大学等	+a	+a
スタッフ	市職員1名 非常駐2名 事務1名	常駐2名（市職員含む） 非常駐4名 事務1名	常駐4名（市職員含む） 非常駐6名 事務1名	常駐6名（市職員含む） 非常駐4名 受付1名 事務1名
施設	仮事務所として 市の既存施設活用	市からUDC業務を委託 場所などは市から貸与	南草津駅前に拠点建設 （他機能併設）	周辺市等にサテライト

全体の流れ

草津版アーバンデザインセンター（UDC）の必要性

3

草津版UDCとは？

10

居心地のいい場所としてのUDC

19

知的好奇心を刺激する魅力あるプログラム

30

公民学連携のプラットフォーム

39

（参考）未来創造セミナー実績

45

（参考）UDCKヒアリングメモ

54

（参考）UDCM出張メモ

60

未来創造セミナーの開催

- ▶ 過去の調査研究の提言を踏まえ、「気軽に自由に議論や話ができる空間が演出され、常に新しい出会いが創造」される場、及び「地域をベースに市民と行政、企業、大学等が連携してまちづくりを進めていくための「場所」、「環境」である連携拠点（機能）」を検討するため、南草津駅前の市民交流プラザにて「未来創造セミナー」を開催する。
- ▶ 今年度はテーマ、手法を変え、6回実施予定。
- ▶ 連携する部課としてのメリット
 - ▶ 未来研究所主催にすることにより、担当課の職員も市民として対話できる仕掛け
 - ▶ 担当者が市民と直接対話することにより、間接的に政策に反映
 - ▶ 和やかな雰囲気の中で異なる立場の他者の意見を聞くことによる新たな気づき
 - ▶ 従来の審議会やアンケート調査では読み取れない課題を肌で感じる機会
- ▶ 基本的な流れ
 - ▶ 市政についてのアンケート結果等をわかりやすく説明するだけでなく、アンケートで見えなかったことを参加者に問いかけ
 - ▶ 大学の先生から、問いかけを考える上での基礎的知識やヒントを提供
 - ▶ ワークショップで解決策を話し合う。
 - ▶ 参加者全員で個々の経験を共有

未来創造セミナーの開催

- 過去の調査研究の提言を踏まえ、「気軽で自由に議論や話ができる空間が演出され、常に新しい出会いが創造」される場、及び「地域をベースに市民と行政、企業、大学等が連携してまちづくりを進めていくための「場所」、「環境」である連携拠点（機能）」を検討するため、南草津駅前の市民交流プラザにて「未来創造セミナー」を開催する。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
テーマ	理想とする女性の働き方	子育てしやすいまち	アーバンデザイン	文化	健康	大学地域連携
庁内連携部署	男女共同参画室	子ども・子育て推進室	都市計画課	未来研究所	未来研究所	未来研究所
専門家	二宮周平 (立命館大学) 京楽真帆子 (滋賀県立大学)	小沢道紀 (立命館大学)	武田史朗 (立命館大学)	木下達文 (京都橘大学)	岡本直輝 (立命館大学)	肥塚浩 (立命館大学)
開催日時	平成27年 7月30日 14:00～16:30	平成27年 8月25日 14:00～16:30	平成27年 11月5日 18:00～20:00	平成27年 12月3日 18:15～20:15	平成28年 1月26日 10:00～12:00	平成28年 3月26日 10:00～12:00
場所	市民交流プラザ（南草津駅前）					

未来創造セミナー参加実績

(1) 属性別参加状況

属性	人数					
	合計	1	2	3	4	5
市民	109	15	21	16	15	40
学生	11	0	0	10	1	0
企業	7	2	0	2	1	2
大学	5	1	1	0	2	1
職員	26	6	10	4	4	4
合計	158	24	32	32	23	47
定員	140	30	30	30	20	30
率	113	80	107	107	115	157

(2) 性別参加状況

性別	人数					
	合計	1	2	3	4	5
男	48	4	5	14	14	11
女	110	20	27	18	9	36
その他	0	0	0	0	0	0
合計	158	24	32	32	23	47

(3) 年代別参加状況

年代	人数					
	合計	1	2	3	4	5
10代	0	0	0	0	0	0
20代	10	1	0	8	1	0
30代	14	4	1	4	1	4
40代	22	3	8	3	2	6
50代	16	5	1	4	6	0
60代	4	0	1	0	3	0
70代	3	0	0	0	0	3
不明	89	11	21	13	10	34
合計	158	24	32	32	23	47

- * 1回目は試験中、2回目は夏季休暇中のため、学生の参加なし
- * 企業については就業時間中であること、テーマ的に関心が無かったことが影響。
- * 大学は1回目は立命館大学職員、2回目は京都橘大学職員
- * 第1、2、3、5回の募集定員は30名、第4回は20名

アンケート集計結果

問い	非常に有意義		有意義		まあまあ		物足りない		非常に物足りない		合計	
1. 運営等全般	3	4	4	5	1	0	0	1	0	9	0	15
												16
												24
												15
												20
2. セミナーの内容	3	3	4	9	8	0	0	0	0	9	0	15
												16
												24
												15
												20

時間が短い

問い	大いに活かせる		いくらか活かせる		ほとんど活かさない		(わからない)		合計		
3. 今後の活動	4	0	4	5	2	3	0	0	9	0	15
											16
											24
											15
											20

合計	第1回
	第2回
	第3回
	第4回
	第5回

セミナー参加者の主な意見

- 気軽に話せる雰囲気だったので話しやすかったです。話が盛り上がってワクワクしました。次につながるといういなあと感じます。
- こうやって行政の方、大学の方、市民がざっくばらんに話せる機会がもてていることがそもそも素晴らしい。
- 問題意識を持たないで来ましたが、色々と考える機会になりました。こういう所から未来創造というものがあるのかなと思いました。
- 実際、市役所ではこういう風にしていきますとか直接職員の方と話せたり、立場の違う方と話せて良かったです。
- 長く住んでいる方、昔住んでた方、お子さんのいらっしゃる方など自分とは違う目線の色んな意見が聞けたため。
- 普段気にとめないようなことも、よく探せば面白いという発見があっっておどろいた。草津市について考えている方が市民のなかでもこんなにたくさんおられたのもおどろいた。
- 託児付き？で子供が泣きながらも運営できるところがすばらしかった。時間も2hでちょうど良いと感じました。

セミナー参加者アンケートからの課題

- ▶ いつも同じ顔ふれになりがちなので、ぜひ話したいのにこのような場所を知らない人、知っているけれど一歩踏み出せないでいる人、楽しそうに議論している様子を見てテーマに関心を持つかも知れない人など**いろんな人が気軽に参加できるように**考えてほしい。
- ▶ 私のいたテーブルは当たり(?)だったようで、とても楽しい有意義な時間を過ごせましたが、お友達のいたテーブルは、終始雑談で何だかなあ...。と思ったようです。同じセミナーにせっかく参加したのだから、**できるだけみんなが楽しくすごせた方が良かった**のになあ...。と思います。(私は、よくセミナーに行くけど、友達は初めてです。) 初めて来た人にこそ、楽しいやん。また来てもいいな。と思ってもらった方がよいのでは? 様子みて、席かえとか、あっても良かったのかな? と思いましたが、どうでしょう。初参加の人に、雑談では、次来ないよ。(原文ママ)
- ▶ 今日出た内容は子育て(世代間についてはこれまであまり聞かなかったかも)に関する話し合いで何度か聞いたが、**今後反映されて実行していけるか疑問**。具体的に、市民が困っていることをくみ上げ、何をいつまでに 達成するか、市民全体に示せるような制度が必要ではないか(原文ママ)
- ▶ もっと多くの人に参加してもらいたい。**自分を発見し、地域を発見する。その繰り返しをしていくことでより深くなるのだと思う。なぜ、なぜ、なぜをくり返す。**草津の根っこを発見し、もっとしっかり根をはる事をしていくこと、**コミュニケーションをもっと取ってお互いの理解を深めたい。**
- ▶ **意見をぜひ実現**しましょう
- ▶ **継続的に同じテーマ**でやったほうがいい

未来創造セミナーで明らかになった 連携拠点設立に向けた課題

- ▶ 多様性
 - ▶ テーマ等によって参加者が一定の層に偏在する可能性あり、次の層が参加しやすい環境づくりが必要
 - ▶ 伝えたい情報や知りたい情報があるにもかかわらず、参加の障壁が高い層
 - ▶ 問題を知らないゆえに無関心なままの層
 - ▶ 地域で活躍の場を求めている幅広い知識や経験を持つ学生、社会人、リタイア層
- ▶ 専門性
 - ▶ ファシリテータ等場の運営のノウハウを持つ人材
 - ▶ 様々な分野の専門知識を持つ人々の参加
- ▶ 実行性
 - ▶ 問題解決に向けて実際に活動する取り組みへの支援が必要

連携拠点づくりのまとめ

- 市の単独事業による連携拠点の進めかた
 - 市が課題をあげ、都度地元の大学の専門家を招き、ワークショップを開催
 - その後は所管課が継続を判断

常に開かれ、
専門家が助言する

市が決めるのではなく、
市民が提起したテーマ
について

気軽に自由に議論や話ができる空間
常に新しい出会いを創造
市民と行政、企業、大学等が連携 ➡

色々な人が参加

連携拠点の仕組みとして
アーバンデザインセンターが有効

全体の流れ

草津版アーバンデザインセンター（UDC）の必要性

3

草津版UDCとは？

10

居心地のいい場所としてのUDC

19

知的好奇心を刺激する魅力あるプログラム

30

公民学連携のプラットフォーム

39

（参考）未来創造セミナー実績

45

（参考）他UDCの特徴

54

（参考）他UDC調査メモ

60

他のUDCの拠点事例

54

	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター)	UDCM (松山アーバンデザインセンター)	UDCIC (アイランドシティ・ アーバンデザインセンター)
所有	東京大学フューチャーセンター施設利用 (無償で賃貸)	空き店舗改修・賃貸 (期間限定)	福岡市港湾局より無償貸与 (民間ビルを市が賃貸)
立地	柏の葉キャンパス駅西口駅前	松山市駅から徒歩8分 松山を代表する商店街近く	ニュータウン玄関 バス停前
建物概要	東京大学フューチャーセンター1階部分 (公開空地隣接)	1階及び2階 (広場前)	福岡ビジネス創造センター 1階ギャラリー部分 (公園前)
面積	部屋面積 150m ² 事務スペース等 70m ² ホールスペース 85m ² トイレは館内施設利用	1階 交流スペース100m ² 2階 事務スペース80m ² 多目的トイレ含まず	ミーティングスペース 約50m ² まちの本棚 約60m ² 情報コーナー 約40 事務局 約20m ²
開館時間	開館日時：月曜～土曜 10:00～19:00 休館日：日曜・祝日・年末年始	開館日時：月曜～金曜 10:00～20:00 土曜・日曜・祝日 10:00～18:00 休館日：年末年始	開館日時：月曜～金曜 10:00～17:00 休館日：土日曜・祝日・年末年始
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・3代目施設 ・周辺に関連施設多数あり ・施設内は飲食自由 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の前に「みんなのひろば」あり ・施設内は飲食自由 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの本棚に図書約2,000冊 ・情報コーナーに模型 (3m×2m), 資料 ・施設内にホールあり、ホールとUDCICは可動壁で仕切られているため、2室繋げて大きく使用することが可能。 ・目の前は公園 ・施設内は飲食自由

他UDCの組織形態

55

	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター)	UDCM (松山アーバンデザインセンター)	UDCIC (アイランドシティ・アーバンデザインセンター)
地域	千葉県柏市柏の葉地域	愛媛県松山市	福岡市香椎照葉アイランドシティ
設立年月	2006年10月	2012年10月	2014年4月
組織形態	任意団体 柏の葉アーバンデザインセンター + 一般社団法人 柏の葉アーバンデザインセンター	松山市都市再生協議会 (任意団体) (事務局：松山市都市デザイン課)	アーバンデザイン協議会 (任意団体) (事務局：福岡市港湾局)
公	柏市 (協力：千葉県他)	松山市	福岡市
民	三井不動産(株) 首都圏新都市鉄道(株) 田中地域ふるさと協議会	松山商工会議所 伊予鉄道(株) (株)まちづくり松山	照葉校区各種団体協議会 立地企業等連絡協議会
学	東京大学 千葉大学	愛媛大学、松山大学、聖カタリナ大学 松山東雲女子大学、(東京大学)	九州大学、九州産業大学 福岡女子大学、福岡工業大学
スタッフ	常駐スタッフ8名 受付1名 事務1名	常駐3名 非常駐6名	常駐4名
施設	東京大学社会連携拠点内 (事務所スペース分負担)	空き店舗を市が賃貸 改修費、家賃等は市が負担	市契約の民間企業本社ビル1階に テナント入居

他UDCの運営形態

56

	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター)	UDCM (松山アーバンデザインセンター)	UDCIC (アイランドシティ・アーバンデザインセンター)
資金の流れ			
	<ul style="list-style-type: none"> • 当初は任意団体柏の葉アーバンデザインセンターとしてスタート。 • アーバンデザインセンター業務に必要な施設や物品に係る経費、運営に係る人件費、プログラム等の経費は、構成団体が持ち寄り（共同負担）。 • 国などの補助金を獲得するため、社団法人化を設立 • 場所は、東京大学フューチャーセンターにテナント入居、事務所スペース分はUDCK負担、オープンスペースは東大負担 	<ul style="list-style-type: none"> • 任意団体松山市都市再生協議会（事務局：松山市都市デザイン課）を設立 • 松山市から協議会に対して分担金を支払い、協議会から愛媛大学の寄付 • 愛媛大学防災情報研究センターが寄附講座としてアーバンデザインセンターを運営 • 場所は商店街の空き店舗利用。賃借料、改修費は松山市負担。 	<ul style="list-style-type: none"> • 任意団体であるアイランドシティ・アーバンデザインセンター協議会（事務局・福岡市港湾局）を設立 • 福岡市の協議会運営負担金から、(株)産学連携機構九州にアーバンデザインセンター運営業務を委託 * (株)産学連携機構九州は九州大学が100%出資する株式会社です。 • 場所は、福岡市が契約し賃貸料を負担。

他UDCの機能別活動事例①

	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター)	UDCM (松山アーバンデザインセンター)	UDCIC (アイランドシティ・アーバンデザインセンター)
学習・交流	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりスクール 千葉大学 柏の葉カレッジ・プログラム まちの交流会 Kサロン その他エリア内のイベント参加 	<ul style="list-style-type: none"> アーバンデザインスクール アーバンデザイン研究会 	<ul style="list-style-type: none"> まちの学校 その他エリア内のイベント、セミナーの企画立案・実施
調査研究	<ul style="list-style-type: none"> 都市環境デザインスタジオ 	<ul style="list-style-type: none"> 専門スタッフの自主研究 地元シンクタンクとの共同調査研究 	<ul style="list-style-type: none"> エリア内のまちのデザイン調査研究・提案、およびまちづくりプラン等の策定・調査研究
社会実験	<ul style="list-style-type: none"> 大学、企業主体（実証実験というよりプロモーションに近い） 	<ul style="list-style-type: none"> 「みんなのひろば」 市民、学生の発案を具体化 	<ul style="list-style-type: none"> 行政主体
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、twitter,FaceBook等SNS利用、フライヤー、冊子等発行 拠点施設自体が街中の目立つところにあり、全面ガラス張りで見内部の活動が見えるようになっている。また地域の情報ステーション的な役割を担っている。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 地元FM愛媛と協力で毎週水曜日にUDCMの取り組み紹介の番組放送 	

他のUDCの機能別活動事例②

	UDCK (柏の葉アーバンデザインセンター)	UDCM (松山アーバンデザインセンター)	UDCIC (アイランドシティ・ アーバンデザインセンター)
デザイン マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ニュータウンであり、開発者がUDCの構成団体として参加 	<ul style="list-style-type: none"> 既成市街地での公や民による事業に対して助言、指導 	(福岡市港湾局が実施)
エリア マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ニュータウンであり、既存の自治会やまちづくり団体が存在せず、UDC自体が主体 	(旧市街地のため、まちづくり関係団体が存在)	<ul style="list-style-type: none"> ニュータウンであり、既存の自治会やまちづくり団体が存在せず、UDC自体が主体。

・デザインマネジメント

景観形成の方向性を共有し、地域の特性に応じたまち並みルールづくりや、デザインの誘導をマネジメントする。

・エリアマネジメント

様々なプログラムを通じてまちに参画する機会や仕組みを仕掛け、地域の持続的な活動を支援する。

また、様々なプログラムを企画・連携させ、地域が主体となって地域の価値を創造・維持・発展させる、自律するマネジメントを行う。

全体の流れ

草津版アーバンデザインセンター（UDC）の必要性

3

草津版UDCとは？

10

居心地のいい場所としてのUDC

19

知的好奇心を刺激する魅力あるプログラム

30

公民学連携のプラットフォーム

39

（参考）未来創造セミナー実績

45

（参考）他UDCの特徴

54

（参考）他UDC調査メモ

60

UDCKについて

①UDCKの役割

▶ UDCKの役割

▶ アーバンデザインの推進

- ▶ 柏の葉キャンパス駅前のまち開きとともに、行政やデベロッパー、大学等で高質で魅力的な空間デザインを推進するためにUDCKを設立。

▶ 次世代モデル都市に向けた先進プロジェクトの推進

- ▶ 公民学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市を実現するため、独自に「柏の葉国際キャンパスタウン構想」を策定。
- ▶ 「柏の葉国際キャンパスタウン計画」の8つの目標を実現するための社会実験等様々な活動の実現に向け、公民学の連携・調整を担う。

UDCK

②プログラムの原則

- 質の高い都市空間デザインに寄与すること
 - エリア内における開発については、公共・民間問わず、計画等について協議すること
- 柏の葉国際キャンパスタウン構想実現に資する活動であること
 - 「柏の葉国際キャンパスタウン構想」の8つの目標のうち、必ず1つ以上に関連すること
- UDCK運営委員会の構成団体が関与していること
 - 構成団体の提案に対し、運営委員会で8つの目標に合致しているか判断し決定
 - 各構成団体が提案したプログラムを実施するために必要な経費は構成団体で協議のうえ負担方法を決定すること

UDCKについて

③UDCKの強み

- ▶ キャンパスタウン構想があること
 - ▶ 活動の指針となるキャンパスタウン構想が存在しており、活動の目標が明確である。
- ▶ アーバンデザインの専門家が常駐し、且つ大学の都市デザイン研究室と連携していること
 - ▶ 常に専門家が常駐しており、まちづくりにかかわる多様なニーズに即応できる体制が常時確保されている。
- ▶ 駅からすぐであり、建物だけでなく、周囲を含めて利活用できること。
 - ▶ 扉を解放すると自由に利活用できる空間があるため、周囲と連携しやすく、活動の幅が広がる。



UDCKについて

④運営の課題

- ▶ 市民活動のサポート機能
- ▶ サードプレイス機能
 - ▶ 柏の葉キャンパスタウンのアーバンデザインを推進するための公民学連携のプラットフォームであり、原則構成団体や協力団体が利用。
 - ▶ まち開き当時は市民活動団体等がなく、UDCKがイベントやセミナーを開催
 - ▶ 10年が経ち、地域の市民活動団体も育ち、多様な活動団体が自由に使えるサードプレイス機能を求められているが、現在でも1日2件以上のミーティング（構成団体等の利用）があり、サードプレイス化は難しい状況。
 - ▶ UDCKが実施したイベントやセミナーから生まれた活動を支援する仕組みがない。
 - ▶ 地域の間支援NPOである「NPO支援センターちば」など、UDCK以外の機関や施設との役割分担の整理がこれからの課題

学習・交流・調査研究の事例 (UDCKの場合) ①

(学習・交流)

- まちづくりスクール
 - 柏市まちづくり公社主催
 - まちづくりの担い手育成プログラム
 - 前期・後期 2回開講 全5回の連続講座 メンバー固定 有料(3000円)

- 千葉大学 柏の葉カレッジリング・プログラム
 - 千葉大学が提供するプログラム
 - 「健康」「農」「食」にかかわる複数コース(2コース～3コース)
 - 前期・後期 2回開講

学習・交流・調査研究の事例 (UDCKの場合) ②

- ▶ まちの交流会 Kサロン
 - ▶ UDCK主催
 - ▶ ゲストスピーカーを招き、交流
 - ▶ 月1回 予約不要 有料(1000円) 差し入れ持込み自由 予約不要
- ▶ その他エリア内各種イベントの主催、共催、参加等

(調査研究)

- ▶ 都市環境デザインスタジオ
 - ▶ 東京大学・千葉大学・東京理科大学・筑波大学の4大学共同の講座
 - ▶ 各大学の学生(大学院生)が履修
 - ▶ 柏の葉キャンパスエリアをフィールドにした都市デザイン演習
 - ▶ 講評会をUDCKで行い、市民等と対話

学習・交流・調査研究の事例 (UDCMの場合)

66

(学習・交流)

- アーバンデザインスクール
 - UDCM主催
 - まちづくりの担い手育成、及びまちのファンづくり
 - 全20回連続講座(1年) メンバー固定 無料
 - 運営: 愛媛大学・松山大学・聖カタリナ大学・松山東雲女子大学の協同運営
 - 講師: 大学教員、商店主、NPO、まちづくり組織、企業家など、実際にそれぞれの分野でご活躍をされている方
- アーバンデザイン研究会
 - アーバンデザインの手法を学ぶ
 - 開催不定期 都度参加者募集
 - プログラム
 - ①ゲストの講演、②学識経験者とのトークセッション、③研究者による研究発表、④意見交換

(調査研究)

- 専門職員、及び構成団体等による共同調査研究

<http://udcm.dmi.ehime-u.ac.jp/>

学習・交流・調査研究の事例 (UDCICの場合)

(学習・交流)

- ▶ まちの学校
 - ▶ UDCIC主催
 - ▶ まちづくりの担い手育成プログラム
 - ▶ メンバー登録制 ただし、イベントは先着申込制
 - ▶ 1回/二か月の頻度でイベント、セミナー実施
- ▶ その他エリア内での各種イベント実施

(調査研究)

- ▶ まちのデザインの調査研究・提案
- ▶ まちづくり活動の調査研究

UDCM 6つの成功要因

1. 都市整備部都市デザイン課の所管

- ▶ UDCMは都市デザイン課の事業として位置づけられている。都市デザイン課は旧市街地開発などフィールドとなる現場、許認可権限、予算を持っており、UDCMにワークショップの開催や市民意識調査等を委託できる。

2. 中心となる教員の存在

- ▶ UDC設立を積極的に進める愛媛大学に教授として出向した国土交通省職員がいた。

3. 愛媛大学の積極的関与

- ▶ 新学部（社会共創学部）構想、寄付講座の利用など愛媛大学の積極的提案、及び関与があった。

4. 誰でもが気軽に立ち寄れる拠点の存在

- ▶ 商店街の脇道に広場を持つ拠点があり、子連れの親子や学生などが気軽に立ち寄り、活動できる。

5. 事業のスピード感

- ▶ UDCMは愛媛大学の寄付講座として実施しているため、タイムリーな企画の実施が可能となった。

6. 社会実験として実施

- ▶ スタート時点は期間限定（1．5年）の社会実験として実施した。一定の成果が得られてため、社会実験終了後も継続が決定した。